

【緑区】令和5年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年2月14日 午後3時10分 ～ 午後4時15分
場 所	緑区役所4階 会議室4AB
出席者	<p>【座 長】 齊藤達也 議員</p> <p>【議員：3名】 鴨志田啓介 議員、今野典人 議員、高橋正治 議員</p> <p>【緑区：23名】 岡田展生 区長、河村義秀 副区長</p> <p>宮嶋真理子 福祉保健センター長</p> <p>酒井啓彦 福祉保健センター担当部長</p> <p>新田巧 緑土木事務所長、齋藤優子 担当部長（緑図書館長）</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	1 令和5年度 個性ある区づくり推進費 予算案
発言の 要 旨	<p>議題1 令和5年度 個性ある区づくり推進費 予算案 (区長、副区長説明)</p> <p>【1 災害に強いまちづくり事業】</p> <p>鴨志田議員：妊産婦（要援護者）に向けた減災啓発支援事業では、どのような取組をするのか。</p> <p>齋藤総務課長：災害に備えて子育て家庭に必要な備蓄のポイントや備蓄品のチェックリスト、子供を守るための普段からの防災対策など啓発物品を配布します。また、離乳食等も災害時用として備蓄し、啓発用として活用します。</p> <p>鴨志田議員：妊産婦などが避難されてきたときにはどうということでお困りになるのか、自治会の方々からよく聞いて、ニーズとマッチングをして、こども青少年局や総務局に伝えていただけたらと思う。</p> <p>高橋議員：JR、市営地下鉄等の関連機関と区が連携して実施する帰宅困難者対策訓練について、具体的にいつどのように行うのか。</p> <p>齋藤総務課長：時期等詳細は未定ですが、これまでは帰宅困難者連絡会で様々意見交換をしてまいりましたが、来年度は中山駅で実際に駅員や一時滞在施設の方、避難者役の方に参加いただき、実際の誘導を通して滞在施設の方はどのような受付ができるのか、どのような対応ができるのか、などを確認する訓練を行いたいと思っています。</p> <p>【4 交通安全施設等整備事業】</p> <p>齋藤議員：安全・安心については様々な要望があるが、長津田駅北口の課</p>

題の一つは駅前に送迎の車のスペースがないことである。少し離れた所にスペースがあるが、そこに停めて歩いて来る人はほとんどなく、駅の直近で車道に停めるのが常態化している。通過する車は右側に寄ってそこを抜けていくのだが、対向車もいるため、何らかの安全対策はできないものか。ぜひ検討していただきたい。

もう一つ、長津田駅に向かって線路沿いをたくさんの方が朝歩いているが、歩行者が傘を差すとかなり車道沿いに幅が寄ってしまう状況の中で、何らかの安全対策を検討していただきたい。

【8 DV対策・児童虐待防止事業】

今野議員：一般の法律相談や区役所の定期的な法律相談では、時間が短くて聞きたい所まで聞けなかったとの声があるが、この事業の法律相談はじっくり相談に乗り、それなりに本人が納得する位の相談ができているのか。また、年間でどの位の法律相談を受けているのか。

五十川こども家庭支援課長：法律相談の時間は1人1時間位なので、区役所で通常行っている法律相談よりも長めに取れており、じっくり相談に乗ることができていると思います。件数は、令和3年度が16件、令和4年度が11件です。

【15 ビオトープ再生による生物環境保全事業】

高橋議員：この事業は具体的にどういうことを行うのか。

加藤緑土木事務所副所長：現在外来種であるウシガエルについて、周辺の方々から苦情をいただいている三保第一雨水調整池において、まずはウシガエルも含めてどういう外来種がいるのかを調査し、どのように外来種を減らしていくのか、どのようなビオトープを作るのかを調査していくものです。

高橋議員：三保第一雨水調整池と同様な状況の場所がどの位あるかは調査済みなのか、それともこれから調査していくのか。

加藤緑土木事務所副所長：今のところ、他の所から何かしていただきたいというお話はいただいけませんので、まずは三保第一雨水調整池で実施し、その結果として他の地域からもお話があれば、また検討することになると思います。

高橋議員：他にも外来種がいて、生態系が壊れているということがあろうと思うので、環境科学研究所などとも連携して行っていくのか。

加藤緑土木事務所副所長：今回に関しては、まだそこまで環境科学研究所

との打合せもしていませんが、現在三保の遊水池等では局の方で事業を進めていますので、それも含めて緑区内でどういう形で進めていくかは検討していきたいと思います。

高橋議員：緑区でこういうことをやっているという発信をし、庁内でも共有して、知恵を集めて良い方向になればと思う。

今野議員：他の外来種、例えばハクビシンやアライグマなどが屋根裏に入ったり、作物を荒らしたりすることへの対策はどうなっているのか。

岡田区長：ハクビシン、アライグマについては、地域から声があった所をピンポイントに対応するというのが現状です。

今野議員：年間どれ位の声があがっているのか。

田中生活衛生課長：対応の所管は環境創造局の動物園課であり、こちらに入ったものを所管課へおつなぎする形なので、正確な数は把握できていませんが、私どもを経由する御相談としてはアライグマ、ハクビシンともそれほど多くなく、半年か四半期に1件程度です。タヌキは月に何件か相談をいただくことがあります。

今野議員：縁日で売っている亀などは、外に放してはいけないということになっているのか。

田中生活衛生課長：アカミミガメは先頃、特定外来生物となり、基本的に飼ってはいけない、放してはいけない生き物となりました。ただし、今ペットとして飼っている方の飼育は認められており、それを勝手に野に放してはいけないという決まりになりました。

今野議員：子どもたちが買ってくるが多かったと思うが、飼っている以上は放しては駄目だということをきちんと伝えていくことが大切だと思う。

【19 ふるさとみどり魅力発信事業】

斎藤議員：緑区プロモーション戦略をどのように作っていくのか。

尾立区政推進課長：横浜市全体のシティプロモーション戦略も見ながら、緑区としてどんなものを作っていくのか、来年度調査をしながら考えていくところです。なお、現時点では、区ホームページに魅力発信サイトを試行的に作成し、プロモーションのためのラッピングバスを走らせるなどの取組を行っています。

【20 みどり脱炭素推進事業】

鴨志田議員：2027年の国際園芸博覧会では、十日市場駅から会場へのシャ

トルバスが出るにあたり、十日市場駅や上瀬谷に向かうまでの道沿いで重点的に脱炭素を考えなければいけないと思うが、いかがか。

岡田区長：十日市場駅が世界の入口になるということですので、脱炭素や環境についての思いを区としても発信していける場所になればいいと考えています。

齋藤議員：「子どものまちづくりイベント Mini Mini Midori」を発展的にリニューアルするとのことだが、どんな内容を考えているのか。

尾立区政推進課長：今までのまちづくりに SDGs の要素を加え、例えばお店をつくるにあたって SDGs のゴールの一つが達成できるような仕組みはどうか、などを子どもたちに考えてもらいながら、まちづくりを考えていくイベントに仕上げたいと考えています。

齋藤議員：せっかくの良い取組なので、会場の中で完結するのではなく、SDGs や脱炭素に対する子供たちの提言や意見などを広く共有できるような機会があると良いと思う。

【27 地域振興事業】

鴨志田議員：担い手の育成や活動への参画をどのように進めていくのか。

中野地域振興課長：自治会で活動しているが、まだ役員になっていない方にいかに役員になっていただくか、また自治会未加入者や加入していても活動に参加していない方に活動していただくためにはどうしたらいいか、その2つをターゲットとして進めていきます。なお、活動している方に役員になっていただくためには、例えば各地区の役員に対して他都市等の事例を聞いていただく講話や、各地区で役員が悩みを共有するグループワークなどの実施を考えているところです。

鴨志田議員：自治会加入を促すチラシに書かれている番号に電話するというのは結構ハードルが高い気がする。ネットでの情報入力で自治会に入会ができ、役員にもなれるなど、ハードルを下げることが大事だと思うが、いかがか。

中野地域振興課長：問合せは自治会だけでなく、区役所にもしてくださいという案内をしています。加入については、紙での提出やFAX送信に加えて、最近は二次元コードを書類に印字し、直接アクセスできるようにするなど、時代に即した方法を少しずつ導入していますので、自治会の皆様にもそういう方法があるということ共有していきたいと思えます。

	<p>【その他】</p> <p>斎藤議員：デジタル統括本部ができてDXが進んでいるところだが、区役所としてはDXをどう進めていくのか。</p> <p>尾立区政推進課長：庁舎関係では無線のLANを整備することで、他の所属とのWeb会議がしやすくなります。また、西区と港南区はデジタル区役所のモデル区として取り組んでいますので、今後ほかの区への展開が増えていくと思われます。その他、地域振興課のデジタル活用促進事業では、デジタルデバイド対策として、高齢者向けスマホ講座や高齢者のスマホ活用の促進に向けた講演会などを計画しているところです。</p>
備 考	